

令和7年度 学校評価 目標設定

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>児童生徒一人ひとりの発達段階や障がいの状態に応じた学習課題の設定、指導方法の工夫、教材・教具の開発を推進し、児童・生徒が「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。</p> <p>授業において、ICT機器の1人1台専用端末を積極的に利活用し、学びのツールとして有効な実践例を積み重ねる。</p>	<p>①児童・生徒の実態をふまえて学習課題を設定し、指導方法の工夫により「すぐにわかった!」「自分でできた!」と実感できる授業を実践する。</p> <p>②学校の授業、家庭での活用を推進し、学びのツールとしてタブレット端末の活用を幅を広げる。</p>	<p>①発達段階や個々の障害の状況についてアセスメントを行い、共有する。校内研究、サポートプログラム等を活用して「すぐにわかった!」「自分でできた!」と実感できる授業を実践する。</p> <p>②学校の各授業で実践を行い、共有する。クラスルームを活用し、休業期間等に行事の学習や教科学習の振り返り、課題の提出等を実施する。</p>	<p>①児童生徒のアセスメント結果を共有することができたか。校内研究、サポートプログラム等で得た内容を取り入れて「すぐにわかった!」「自分でできた!」と実感できる授業を実践することができたか。</p> <p>②学校での授業実践を校内で共有することができたか。家庭と連携し、実態に合った課題設定により自主的な学びにつなげることができたか。</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>児童・生徒一人ひとりが互いの人格や多様性を尊重し、自他を大切にする心と互いにかかわりながら生活する力を育てる。</p>	<p>①-1 授業や学校生活を通して、互いの人格や多様性を尊重し、自他を大切にする心を育てる。</p> <p>①-2 相手や自分を大切にする意識を持ち、SNS等を有意義に活用できるようにする。</p>	<p>①-1 授業等で児童生徒が自ら発表する機会や、他者の発表を見聞きして、意見交換や感想を伝え合う機会を設定する。</p> <p>①-2 保護者・教員対象に研修を設定し、SNS利用のリスクと危機回避について具体的に学ぶ。また、日常生活の指導等でマナーを守り相手を思いやる行動について考える機会を設定する。</p>	<p>①-1 授業等で児童生徒が自ら発表することができたか。また、他者の話を聞くなど相手を尊重する行動につながったか。</p> <p>①-2 研修会の内容をふまえて、日常生活の指導等でマナーを守り、相手を思いやる行動について考える授業を実施することができたか。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>成功体験を積み上げる教育活動により自信や意欲を高めて、将来の自立と社会参加や、自分らしい生き方を見つけるための支援を行う。</p>	<p>①-1 一人で、あるいは仲間と協力して活動に取り組み、成功体験を積み重ねて自信や意欲を高める。</p> <p>①-2 保護者向けの学習会や見学会を実施し、児童生徒が卒後の自立と社会参加のイメージを持てるよう、指導・支援を行う。</p>	<p>①-1 児童生徒がそれぞれの役割を果たし、仲間と協力をしながら進める教育活動を計画し実践する。</p> <p>①-2 小中学部段階から、教育部門や学部ごとに施設見学会を実施し、保護者や児童生徒が、直接先輩や施設職員の話を聞く機会を設ける。</p>	<p>①-1 一人で、あるいは協力して取り組むこと役割を果たすことにより、自信や意欲を高めることができたか。</p> <p>①-2 各学部のニーズに合わせた説明会や見学会等を実施し、児童生徒が、将来の自立と社会参加のイメージを持つことにつながる指導・支援を行うことができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	<p>地域社会を実践的な学びの場ととらえて、日々の学習で培った力を地域社会への貢献活動として発揮するなどの取組を教育課程に位置付けて実践する。</p> <p>地域に開いた学校行事を、地域と連携・協働して企画する行事に発展させ、継続する。</p>	<p>①-1 地域社会で学ぶ内容を教育課程に位置付けて、地域のことを知り、清掃等の貢献活動により自己有用感を高める。</p> <p>②地域の協力を得てイベント等を実施し、交流を深めるとともに学習の成果を発信し、地域と学校との相互理解をすすめる。</p>	<p>①-1 児童・生徒の地域活動として清掃活動、施設の活用等に取り組み、HP等で発信する。 近隣大学との授業等の連携について模索し、実施につなげる。</p> <p>②20周年記念事業で近隣の関係機関等との協働活動に取り組み、一緒に楽しむイベントを実施する。</p>	<p>①-1 地域社会で学ぶ内容を教育課程に位置付けて実施し、児童生徒の自己有用感を高めるとともに、活動内容を地域の方や保護者に向けて発信することができたか。</p> <p>②地域の協力によりイベントを実施し、交流を深めるとともに児童・生徒の活動の成果を発信し、地域との相互理解を進めることができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」を活用し、児童・生徒が安心して学ぶことができる学校にするとともに、取組の好事例を共有する仕組みを構築して、短期間で内容の充実・更新を図る。</p> <p>災害時や非常時に備えて、関係機関と協力して訓練・研修等に取り組み、児童・生徒が安全に学ぶことができる環境を整える。</p>	<p>①「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」について、職員同士や、職員と保護者とで話題にしてみんなで考えることにより意識向上を図り、児童生徒への指導につなげる。</p> <p>②災害時、非常時の対応を整備し、緊急時に適切な対応ができるように備える。また、スクールバスの運営の円滑化を図る。</p>	<p>①「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」について、職員間で話題にする時間や、職員と保護者とで話題にする時間を設定する。</p> <p>②避難訓練や引き渡し訓練実施後振り返りを行い、改善点を計画に反映する。校内危険箇所を共有する。スクールバスGPSの保護者利用を進める。</p>	<p>①「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」について、職員同士や、職員と保護者とで話題にしてみんなで考えることにより意識向上を図ることができたか。</p> <p>②訓練の内容をブラッシュアップすることができたか。校内の安全環境が改善されたか。GPSを活用したスクールバス運行情報システムの保護者利用を進めて安全な運行につなげることができたか。</p>